

江戸後期儒者の フィロロギ―

原典批判の諸相とその国際比較

竹村英二著

▼A5判・二五六頁／定価：本体五、五〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1838-7

【二〇一六年三月刊行予定】

江戸時代後期～幕末の日本では高度な考証的学問が発展した。それを担ったのは「市井」の儒者たち。彼らのこうした属性は、同時代中国の考証学者の多くが政治・社会的環境と相即不離な状況にあったのと異なり、近代的学問の基本である客観性と実証性を備えた、既成思想に束縛されない学究活動を可能とした。これは少なくとも十八世紀という時空においては世界史上きわめて稀有なものであった。

日本における実証的学問の成立は清朝考証学と近代の西洋体験を基盤とする――こうした所論は再考を余儀なくされるのである。

◎ 内容目次 ◎

総論編

序 論 本書の中心的課題、ならびにその射程

第一章 江戸中～後期における漢学学問方法の発展

――漢学／二 漢学（儒学）と近代知性／三 幕末漢学のなを、どう研究するか／四 幕末の「知識層」における漢学の素養の効用

各論編 1 古典テクスト研究の諸相

第二章 十八世紀日本儒者の『尚書』原典批判

――中井履軒『七經題辭喜（書）』、同収『離題附言（書）』を題材に
はじめに／一 履軒の『尚書』研究／二 履軒の古文経「原典」批判／小括 忌憚なき「原典批判」

第三章 東條一堂の『論語』研究――権、道義と業務

はじめに／『論語知言』の権、道義と業務／小括

第四章 久米邦武と『尚書』研究

――清代考証学と宋・元・明経学の兼採の様相
はじめに／一 「尚書日知禮記」にみる久米の『尚書』理解／二 元・明代『尚書』研究と久米／三 「書纂言」序文と「古今文聚訟」／小括

第五章 思考様式醸成要素としての儒学テクスト読解の作法――練熟「組織セル念慮」の醸成装置として

はじめに／一 田中知周（述）『讀書準繩』／二 江村北海『授業編』と『讀書準繩』／三 『讀書準繩』『授業編』そして洋学学習の実相／小括

各論編 2 古代言語への意識／接近

第六章 太宰春臺における古文の「體」「法」重視

――古文辞「習熟」論に鑑みて
はじめに／一 春臺『紫芝園稿』にみえる模倣・剽窃批判／二 春臺における「體」「法」重視／小括

第七章 理解力・翻訳力・外国語習熟力

――なぜ明治の知識層は漢学廃止に反対したか
はじめに／一 森田思軒／二 中江兆民／三 中村敬宇／小括

結 論 日本儒学における考証学的伝統と原典批判

――古くて新しい論点／二 西欧における文献学の祖／三 十八～十九世紀ドイツの「文献学」／四 東西の文献学発展におけるパラレル／五 「文献学」としての十八世紀日本の儒学、そして武内支那学

索引（人名／史資料名）

たけむら・えいじ…1962年生。豪メルボルン大卒、米カリフォルニア大パークレー校に交換留学生として在学。英ロンドン大大学院修了。現在、国士舘大学教授。主な著書に『幕末期武士／士族の思想と行為――武人性と儒学の相生的素養とその転回』（御茶の水書房、2008年）など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	江戸後期儒者のフィロロギー		本体5,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1838-7
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担）				
	◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

本書HPのQRコード

本書HPのQRコード

廣瀬淡窓

井上敏幸監修／高橋昌彦編著

江戸後期、豊後日田に生まれ活躍した儒学者・教育者・漢詩人の廣瀬淡窓(1782-1856)の評伝。従来の評伝が、淡窓の著作に傾注して叙述されてきたのに対して、本書では、淡窓の日記や自叙伝、著書をはじめ、書簡や漢詩、周辺史料などから淡窓の生涯を再検討し、新たな淡窓像を構築する。

▶B6判・332頁／本体2,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1817-2

熊沢蕃山思想冒険

山田芳則著

近世の儒者・熊沢蕃山(1619-91)の一つ一つの著作の思想構造の解明をめざし、それぞれの著作を比較することで、蕃山の思想の変化に注目し、その変化の意味を問う。また中江藤樹『翁問答』や池田光政の藩政改革をとりあげて、岡山藩における蕃山の政治体験の意味を解明し、それらの考察から多様な蕃山の思想を立体的に浮かび上がらせる。

▶A5判・218頁／本体5,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1783-0

徂徠学の史的研究

今中寛司著

第一章においては、新史料「徂徠先生年譜細君墓表一卷」、徂徠自筆『勝覚寺縁起』により徂徠の前半生を明らかにし、第二章では徂徠学における「古文辞」の学と、それを生み出した私塾護園について論じ、第三章において徂徠の業績と評価を総合的にまとめる。

▶A5判・424頁／本体12,000円(税別)

ISBN4-7842-0737-6

近世国家の教育思想

本山幸彦著

徳川幕藩体制期の教育政策を縦覧し、政治・経済・社会の諸条件と関連させながら、政治と教育の関係を明かす。幕府・諸藩の教育機関設立の趣旨、幕臣や藩士に対する奨学の論旨、教育機関発達の諸条件など、体制の維持・存続・強化のための教育思想・施策の具体像を明らかにする。

▶A5判・296頁／本体7,000円(税別)

ISBN4-7842-1069-5

※近世地域教育史の研究

木村政伸著

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。【内容】近世の社会構造と分限教育論／吉武法令の学問観と彼の教育活動／峯平蔵と信斎塾／法命系私塾の教育内容とその性格／村役人層における文化・教育構造の変容 など

▶A5判・290頁／本体5,700円(税別)

ISBN4-7842-1274-4

※武士の精神(エトス)とその歩み

武士道の社会思想史的考察

アレキサンダー・ベネット著

武家政権の誕生から、明治維新に伴う身分制度の廃止に至るまでの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。文化人類学者のクリフォード・ギアツによる宗教の定義を援用し、武士の気風や動機などがどのように進展していったか、その過程を明らかにする。

▶A5判・296頁／本体4,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1426-6

松岡恕庵本草学の研究

太田由佳著

江戸前～中期に活躍し、近世日本において本草学が博物学的に発展してゆくなかでその一翼を担った人物として評価される京都の本草家松岡恕庵(1668-1746)を主題に据え、その学問の実像に迫る。松岡恕庵に関する基本的研究書。巻末に資料編として松岡恕庵著作・関連資料目録を付す。

▶A5判・390頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1617-8

※東洋学説林

神田喜一郎著

東洋史研究の第一人者が壮年時代に書いた論文の一部を集めて一書とした昭和23年版の復刻。戦後の東洋史研究の基礎を築いた神田博士の論稿は今もなお精彩を放つ。『史林』に発表して以来多くの学者の注目を集めた「明の四夷館」など12篇を収める。

▶A5判・240頁／本体3,200円(税別)

ISBN4-7842-0285-4

※広瀬旭莊全集〔全12巻・別巻1〕

中村幸彦・多治比郁夫・岡村繁・中野三敏・井上敏幸編

江戸末期の儒者広瀬旭莊の31年間の日記(日間瑣事備考)を中心に、詩文・随筆・書簡まで全て網羅する。

日記篇(全9巻)▶B5判・平均560頁／揃本体127,500円(税別)

随筆篇(全1巻)▶B5判・472頁／本体14,500円(税別)

詩文篇(全1巻)▶B5判・892頁／本体30,000円(税別)

※書簡・伝記資料編(全1巻)および別巻(総索引)は未刊

思想史における近世

柴田純著

個人と社会、主観と客観の相剋に挑む新鋭の問題作。

【内容】近世思想史研究の課題と方法／近世前期における学文の歴史的位置／那波活所の思想／那波活所と徳川頼宣／徳川頼宣の藩教学思想／近世における法と理／近世初頭の社会と儒者／思想史における近世／宋明学を受容と日本型中華意識

▶A5判・310頁／本体5,800円(税別)

ISBN4-7842-0650-7

在村知識人の儒学

川村肇著

近世後期の在村知識人の諸相を具体事例にそってとりあげ、民衆の儒学と教育の近代化の関係を探る。

【内容】民衆儒学と教育近代化／幕末維新期の民衆における漢学教育／儒学と農業／漢学教養の形成／儒学と救民行為／儒学と主体形成／崎門派の在村儒学と学校構想／在村知識人と近代化

▶A5判・278頁／本体6,400円(税別)

ISBN4-7842-0912-3

※近世儒者の思想挑戦

本山幸彦著

江戸開府から大政奉還までの近世265年間を、成立・安定・動揺・崩壊の4期に分け、各時代の代表的儒者・思想家である林羅山・熊沢蕃山・貝原益軒・荻生徂徠・佐久間象山・横井小楠をとりあげ、彼らが直面した時代の課題にいかにか解決の道を見出そうとしたのか、その思想的営みの足跡に迫る。

▶A5判・314頁／本体7,500円(税別)

ISBN4-7842-1304-X

※幕末・明治期の儒学思想の変遷

山田芳則著

山田方谷、阪谷朗廬ら主に吉備地方の思想家10名をとりあげ、幕末期の儒学思想の特質、近代西洋文明との接触による儒学思想の変容、明治期の儒学思想の課題、さらに儒学批判を通じた明治期における西洋思想形成の過程を解明し、儒学が果たした地域的役割をも考察する論集。

▶A5判・258頁／本体5,600円(税別)

ISBN4-7842-0982-4

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

明治政府が独立を堅持できたのは、先行する徳川に日本の文明史的力量という素地があったからであるという視点に立ち、徳川社会はどのような力をいかにして形成し得たのか、多分野の研究者が総合的に究明する論文25篇。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1800-4

※一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀社会は、儒学・本草学・博物学・蘭学など他分野において多くの成果を生み出し近代化に多大な影響を与えた。それはいかにして形成され、どのような影響を受けつつ展開を示したのか、様々な視点からの論文で総合的に探究する。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1580-5

※近世日本釈奠の研究

須藤敏夫著

釈奠(せきてん)とは、孔子をはじめとする儒教の先哲を先聖・先師として祭る祭儀、近世においては林家聖堂や藩校において行われた学芸奨励の重要行事であった。幕府及び諸藩における実態を詳細に調べ、釈奠儀礼の盛衰を明かす。近世教育史および儒学・思想史研究の空白を埋める。釈奠研究の第一人者による他に類書のない初の体系的な研究。

▶A5判・340頁／本体8,000円(税別)

ISBN4-7842-1070-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。